**ズラトミール・ファン（チェロ）**

**Zlatomir Fung, cello**

2019年に第16回チャイコフスキー国際コンクールのチェロ部門において史上最年少で優勝し、アメリカ人としては40年ぶりの快挙を遂げた現代を代表する若きチェリスト。若くして卓越した技巧と洗練された表現力は多くの聴衆に驚きと感動を与え、すでに世界に通用する次世代のスタープレイヤーとして確固たる地位を築いている。2022年ボルレッティ＝ブイトーニ賞や2020年エイヴリー・フィッシャー・キャリア・グラントを受賞。完璧なテクニックを披露する名曲から深い洞察力が発揮される現代曲までとそのレパートリーは幅広い。

2024/25年シーズンはニューヨーク、ボストン、セントルイスでリサイタルのほか、各地でJ.S.バッハの無伴奏チェロ組曲全曲演奏に取り組む。またバルセロナ交響楽団、ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン指揮エバーグリーン交響楽団との共演や、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団との再共演も予定している。フランス、ポーランド、ルーマニア、韓国、日本、中国、イタリアでの演奏活動も行っている。

2025年1月にはシグナム・レコードからデビュー・アルバムとなるチェロとピアノのためのオペラ・ファンタジーとトランスクリプション集がリリースされた。ヤナーチェクの『イェヌーファ』を題材にファン自身が作曲した幻想曲や、ロッシーニの『ウィリアム・テル』の知られざる編曲（19世紀の作曲家フランソワ＝ジョルジュ・ハインルによる）の世界初録音などが収録されている。

非の打ちどころのないテクニックでカノンに精通するだけでなく、ウンスク・チン、キャサリン・バウチ、アンナ・クラインなどの作曲家の作品を度々取り上げ、現代音楽レパートリーにも卓越した洞察力を発揮している。2023年には、ジェマ・ニュー指揮ダラス交響楽団との共演で、キャサリン・バウチの「ウィスパーコンチェルト」を世界初演し、「あっと驚くような輝き（ダラス・モーニング・ニュース紙）」と評された。また2024年2月にはジョシュア・ワイラースタイン指揮BBCフィルハーモニー管弦楽団と同曲の英国初演も務めている。

ブルガリア系と中国系の両親のもとに生まれ、3歳でチェロを始める。コヴナー奨学金のフェローとしてジュリアード音楽院でリチャード・アーロンとティモシー・エディーに師事。現在は、篤志家から貸与された1735年頃のドメニコ・モンタニャーナと、日本音楽財団から貸与された1696年製のストラディヴァリウス「ロード・アイレスフォード」という2つの名器を演奏している。音楽以外の趣味は、映画、読書、早指しチェス。

(1029字／2025年5月)

2019年に第16回チャイコフスキー国際コンクールのチェロ部門において史上最年少で優勝し、アメリカ人としては40年ぶりの快挙を遂げた現代を代表する若きチェリスト。若くして卓越した技巧と洗練された表現力は多くの聴衆に驚きと感動を与え、すでに世界に通用する次世代のスタープレイヤーとして確固たる地位を築いている。完璧なテクニックを披露する名曲から深い洞察力が発揮される現代曲までとそのレパートリーは幅広い。

2024/25年シーズンはニューヨーク、ボストン、セントルイスでリサイタルのほか、各地でJ.S.バッハの無伴奏チェロ組曲全曲演奏に取り組む。また2025年1月にはシグナム・レコードからデビュー・アルバムとなるチェロとピアノのためのオペラ・ファンタジーとトランスクリプション集がリリースされた。

ブルガリア系と中国系の両親のもとに生まれ、3歳でチェロを始める。コヴナー奨学金のフェローとしてジュリアード音楽院でリチャード・アーロンとティモシー・エディーに師事。現在は、篤志家から貸与された1735年頃のドメニコ・モンタニャーナと、日本音楽財団から貸与された1696年製のストラディヴァリウス「ロード・アイレスフォード」という2つの名器を演奏している。音楽以外の趣味は、映画、読書、早指しチェス。

(551字／2025年5月)

2019年に第16回チャイコフスキー国際コンクールのチェロ部門において史上最年少で優勝。若くして卓越した技巧と洗練された表現力は多くの聴衆に驚きと感動を与え、すでに世界に通用する次世代のスタープレイヤーとして確固たる地位を築いている。ブルガリア系と中国系の両親のもとに生まれ、3歳でチェロを始める。現在は、篤志家から貸与された1735年頃のドメニコ・モンタニャーナと、日本音楽財団から貸与された1696年製のストラディヴァリウス「ロード・アイレスフォード」という2つの名器を演奏している。

(244字／2025年5月)